Ｂ－５　評価規準の吟味と教師の評価力の向上

＜三次「小物作り」　３時＞　において

本時のねらいは、「よりよい作品を製作するために、目的に応じたぬい方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。」である。

本時の評価規準は、当初は、「友だちの意見を生かしたり、自分なりに工夫したりしている。」（創意工夫）とした。

そして、３人の子どもを抽出し、複数の教師で評価し、本時の評価規準、さらにはＡと判断する視点について吟味した。

どう評価したかをお互いに話し合う中で、次のような子どもの具体的な姿に着目していった。

①友だちの作品について、たくさん意見を出す、つまりはたくさん黄色い付箋に書いている。

②デザインだけでなく、製作の仕方を見通し、手順や機能性についての意見を書いている。

③友だちの意見を受け入れ、よりよい作品にするために生かそうとしている。

④友だちの意見からだけでなく、友だちの作品を見たり、触れたりする中で、自分で考え、気づき工夫している。

話し合う中で、①③の姿から、本時の評価規準を「よりよい作品を作るために、友だちの意見を生かして工夫している。」とした。そして、**②④の姿**から、Ａと判断する視点を「よりよい作品を作るために、友だちの意見を生か（したり、**自分なりに工夫**したり）している。」とした。

このように、子どもの具体的な姿をもとに、評価規準について吟味することが、自己の評価力を向上させることができると考える。

また、評価力の向上に取り組むことが、指導力の向上にもつながっていくと思う。